

施策評価シート

評価年度	平成28年度	事業実施年度	平成27年度	施策主管次長名	教育部次長 鈴木 正憲	
施策番号	69	施策名	豊かな心と個性が輝くまち		総合計画掲載頁	150
関係課名	学校教育課、教育行政課					

1. 施策の概要

施策の目的	対象	対象指標名	単位	H26実績	H27実績	H28見込	H29見込	H30見込	H31見込	
				① 児童生徒数	② 人口	③	④	⑤	⑥	
意 図	子どもたちが元気で安心して生活ができ、進んで学習できるまちにする			① 教育相談件数(教育支援センター含む)	② 学校が楽しいと答えた児童生徒の割合	③ 体力テストの県平均を上回った種目の割合(小5)	④ 体力テストの県平均を上回った種目の割合(中2)			

2. 成果指標

指標	成果指標名	単位	H26実績	H27計画	H27実績	H28計画	H29見込	H30見込	H31見込
①	教育相談件数(教育支援センター含む)	件	1,968	1,970	2,116	2,200	2,500	2,500	2,500
	指標設定の考え方と把握方法	人間関係等の悩みやストレスの量を表す数値を教育相談の件数とし、学校教育課で把握							
②	学校が楽しいと答えた児童生徒の割合	%	小92.1 中89.5	小94.0 中92.0	小92.8 中89.7	小94.0 中93.0	小95.0 中94.0	小95.0 中95.0	小95.0 中95.0
	指標設定の考え方と把握方法	学校が楽しいと感じることが、学習意欲と相関関係にある。児童生徒へのアンケートで把握							
③	体力テストの県平均を上回った種目の割合(小5)	%	男62.5 女75.0	男75.0 女75.0	男100.0 女100.0	男100.0 女100.0	男100.0 女100.0	男100.0 女100.0	男100.0 女100.0
	指標設定の考え方と把握方法	児童が元気に生活できるための基礎体力を「体力テスト」で把握							
④	体力テストの県平均を上回った種目の割合(中2)	%	男75.0 女25.0	男75.0 女62.5	男87.5 中75.0	男100.0 女100.0	男100.0 女100.0	男100.0 女100.0	男100.0 女100.0
	指標設定の考え方と把握方法	生徒が元気に生活できるための基礎体力を「体力テスト」で把握							

3. 施策の評価

項目	評価のコメント				
施策の成果向上に向けての市民と行政の役割分担	市民	学校教育への関心と理解を深め、学校・家庭・地域との連携で子どもたちの健全な育成を図る役割を担う。			
	行政	子どもが心身ともに健全で、通いたい学校、保護者が安心して通わせたい学校づくりをする。			
達成度評価	近隣との比較	<ul style="list-style-type: none"> 豊田市は青少年相談センター(パルクとよた)で月曜日から土曜日、岡崎市は教育相談センターで月曜日から土曜日、安城市は安城市教育センターで月曜日から金曜日にそれぞれ臨床心理士等が相談活動を実施している。 刈谷市は子ども相談センターで月曜日から土曜日に、碧南市は教育相談室、西尾市は児童教育支援センターにおいて月曜日から金曜日に相談員などが相談活動を実施している。 本市では、教育支援センターを設置し、月曜日と水曜日、木曜日の3日間、専門相談員が9時間相談活動を実施するとともに、各校に相談員を配置し児童生徒の相談に対応している。また、学校教育課においても指導主事による教育相談を行っている。 			
	過去3年間の実績との比較	<ul style="list-style-type: none"> 相談件数は、平成25年1,978件、平成26年1,968件と減少傾向にあったが、平成27年度小学校にスクールカウンセラー2名を増員したところ、学校での相談件数が大幅に増加し、2,116件になった。 学校が「楽しい」「どちらかといえば楽しい」と答えた割合は、小・中学校ともに昨年度とほぼ同じであったが、強い肯定(楽しい)と回答する小学生が明らかに増加している。 体力テストは、過去3年間ではじめて小学校が男女とも、8種目すべてが県平均を上回る結果となった。中学校の男子、女子もそれぞれ8種目中男子7種目、女子6種目が県平均を上回り、県平均を上回る種目数が増加傾向に転じた。 			
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> 相談件数は徐々に減少する傾向にあったが、市費スクールカウンセラーを2名増員したところ、相談件数が大幅に増えた。潜在的に悩みを抱える児童生徒や保護者は依然として多く、そのニーズに十分にこたえられる体制を作る必要がある。 学校が楽しいと答えた児童生徒が計画値に到達しなかった。学校が楽しいと感じる児童生徒が多くなるには、児童生徒が悩みを解決できること、児童生徒が主体的に取り組む、楽しくわかりやすい授業が行われること、児童生徒が学校生活の中で教師や仲間から認められ自分の存在意義を感じられることが必要である。 体力テストについては、県平均を上回る種目数が増加した。今後も、運動に親しみ健康で安全な生活を送る児童生徒の育成を通して、心身ともに元気に過ごす基礎を養っていく必要がある。 				
今後の取り組みの方向性および次年度の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒一人一人に合ったきめの細かい支援をする為に、専門相談員やスクールカウンセラーの効果的な活用を促す。 わかる授業、楽しい授業とするために少人数での授業や複数の教師で指導するとともに、授業で身につけた力をさまざまな場面で活用する授業を展開するため、教職員の力量向上を図る。 児童生徒が主体的に取り組む授業とするために、また、児童生徒が学校生活の中で自分の良さや集団から必要とされていること、集団の役に立っていることなどを実感できる教育を実践するために、教職員の力量向上を図る研修を行う。 すべての学校でたくましく健康な子どもが育つよう、教育振興基本計画「みよし教育プラン」に基づく新たな体作りのプログラムを作り、児童生徒の心身の健康増進や体力向上を図る。 <p>(29年度の取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒一人一人に対するきめの細かい指導及び支援の充実を目指して、本年度も、専門相談員による相談の機会を増やしたり、小中学校少人数指導等対応非常勤講師、特別支援教育対応教員補助者、子どもの相談員・心の教室相談員派遣事業を積極的に推進する。さらに、教職員の指導力向上のため授業アドバイザー等の派遣を充実させる。 北中学校大規模改修(2期)工事等学習環境整備を進める。 				
市民意識	重要度	高い	満足度	低い	平成27年度市民アンケート調査による